



ひとう

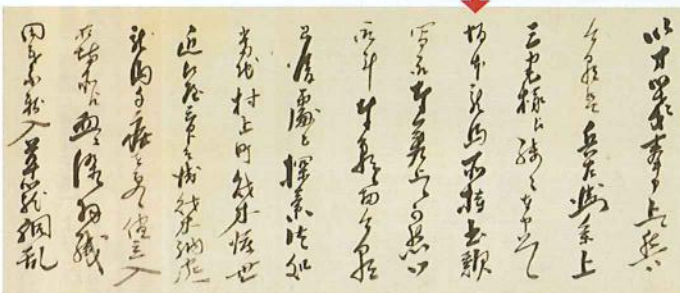


海援隊旗(二史きの旗)

http://www.ryoma-kinenkan.jp

# 意気 IKI KENKO 軒 昂

探索方文書を中心に  
今回は、藩邸史料に多くを占める探索文書を中心に展示を行うこととした。タイトルに「探索御用役」の語を使用した



伏見奉行所報告・第一報 「坂本龍馬」の名がみえる(矢印部分)

が、これは常置の役では  
なく、各地へ探索のため派遣される者に臨時に与えられた役名である。展示の内容を象徴的にあらわすものとして採用した。

密偵・足輕松丞とは？  
おもな展示史料は、既に存在を知られ、当館でも展示をおこなっているが、坂本龍馬が慶応2年(1866)1月、伏見の寺田屋で襲われた際の奉行所報告のほか、池田屋事件に関わった土佐藩足輕吾吉の調書、岡田以蔵と勤王党大獄関連などである。

パネルにイラスト工夫  
今回の展示では、一般の方にはなじみにくい古文書に親しみ、理解を深めてもらうため、パネルにイラストを多用し、古文書に書かれている場面を絵で表現する試みをおこ

## 貴重な藩邸史料

平成21年12月、高知県が購入した「土佐藩京都藩邸史料」(藩邸史料と略す)については、当館において本目録の整備作業を続けてきた。その作業がこのほど終了し、目録を出版するとともに、本格的なお披露目録を開催する運びとなった。  
藩邸史料は、京都におかれた土佐藩邸で作成または保管された史料群で、574点を数える。江戸や京都にあった藩邸は、明治維新とともに役目を終え、史料の多くもそのとき散佚したと考えられている。現在、まとまった藩邸の史料は全国的にも見つかっておらず、土佐藩の史料、幕末の京都の史料、藩邸の史料、さまざまな観点からみても、非常に貴重な史料群といえる。

探素文書とひとくちに言っても、探素役が他国から持ち帰る情報、江戸や京都で他藩士と交わり得る情報、土佐藩内の状況、世間の噂話など、内容はさまざまである。関心の対象も、長州征討や開港交渉などに関する幕府や諸藩の動きから、土佐からの脱走者の動向まで多岐にわたる。

たいのは、密偵として抜きんできた才能を発揮する足輕松丞の報告書である。潜入先では口先で相手を信用させて情報を聞き出し、危険を察知するといち早く逃げ出す。特技は手裏剣というから、まるで忍者である。

いかなるフィクション(作り話)よりも、ノンフィクション(事実)の方がはるかに面白い。歴史の仕事に携わる身となつて日々実感することであるが、幕末に生きた人々の生の史料から、松丞のような人物が幕末の土佐に実在したという事実を知り、歴史を深く味わっていただければ幸いです。

# 「土佐藩探索御用役」がみた幕末」展

古文書に歴史のスリルを感じて 生きた幕末を知る手がかり

—京都藩邸史料から—



足輕松丞

### 関連事業

- 講演：10月7日(日) 幕末の土佐藩邸「京都藩邸史料を手がかりとして」 (講師) 土佐山田家 渡部 淳氏 (講師) 土佐山田家 渡部 淳氏
- 学芸員による歴史講座①：10月27日(土) 「龍馬が襲われた 寺田屋事件報告書を読む」
- 学芸員による歴史講座②：11月3日(土) 「野老山吾吉郎が関わった 池田屋事件供述書を読む」
- 学芸員による歴史講座③：11月10日(土) 「渡辺松丞の探索報告書を読む」

なっている。併せてお楽しみいただきたい。  
なお、この展示は高知市史近世部会連携展示「知らなかつたこんな土佐in江戸時代」に参加した企画となっている。同時期に開催される他の博物館や図書館の展示も、ぜひごらんいただければと思う。

最後となったが、史料購入・仮目録作成の段階でさまざまな方たちにご協力いただいた個人・関係各位にお礼申し上げます。  
亀尾 美香

\*いずれも14:00~16:00、桂浜荘大会議室、定員50名(先着順)参加無料  
お申し込みは電話で龍馬記念館まで。



# 資料の少なさを解説で補う 好評だったチャレンジ企画

## 小学生が夏休み研究にも

展示中には嬉しい反応もいくつかあった。その一つは、小学5年生が夏休みの自由研究に吉田東洋と開成館を選んでくれた。立派な研究にまともな上げてくれた。山内家宝物資料館での巻物を作る講座にも参加して、研究成果を、8mを越えるような巻物に仕上げた。「こんな凄いな物なのに、県内に銅像がないのはおかしい。東洋の銅像はどうやったら造れるのか？どこへ造るべきなのか？」と、研究が終わって益々東洋への興味が湧いたようだった。

また、高知市内の歴史愛好家の方が、展示を高く評価して下さり、以前から連絡を取っていた鹿児島在住で東洋の遠縁に当たるご子孫を、最終日に連れてきてくださった。これまで、東洋の子孫の連絡先は一切分からなかった。ご子孫が分かれば、



無人島(鳥島)の図「漂異紀略」より  
万次郎らが流れ着いた鳥島をスケッチしたもの。右下にジョン万のサインがある。

そこから新資料の発見に繋がり、東洋の研究が進む可能性もある。このご縁を大切に、今後の研究に活かしていきたい。

まだまだ東洋から上土層についての研究は十分に行われておらず、この展示を契機に、さらに当館でも研究を深めていきたい。土佐藩全体の動向を研究するこ

とによって、龍馬や勤王党の理解も更に増していくはずだ。ジョン万の足跡を追う重要な手がかり、念願の『漂異紀略』が寄託に

津の松岡鬼一氏が所蔵されていた『漂異紀略』4冊(通称・大津本)を借りて展示した。私が当館へ就職した初年度のこと、右も左も分からないまま手掛けた企画展だった。その時からのご縁で、ずっと気にかけてくださり、2年前の『龍馬伝』の年には、「何かと必要になるだろうから」ということで、『漂異紀略』の画の部分を写真に撮らせてくださり、展示に自由に使うて良いと許可してくださった。その鬼一氏が7月初旬にお亡くなりになり、一雄氏・敏夫氏のご兄弟へと代が移り、お二人がご相談の上、当館へ寄託してくださった。鬼一氏は、生前からこの資料が万次郎の故郷である土佐清水市の発展に活用されることを願っておられたので、今後は、ご遺志を尊重し、大切に保管すると共に、土佐清水市と協力を深めていきたい。

現在、高知市民図書館から活字化された本が出版されており、早速大津本と比較すると、表現がかなり違っていることが分かる。例えば、市民図書館の活字本では、大統領制に触れた箇所があるが、大津本では同じ箇所が州知事制になっている。これは、万次郎の英語を翻訳した時の違いではないかと考える。大津本の州知事制が最初の訳で、完本を作る際に、大統領に改められたものではないだろうか。正確な答えは、各地に残る写本や稿本を付き合わせてみない限り分かりそうもない。そこで、来年の4月末頃からは、各地に所蔵されている『漂異紀略』を、できる限り多く集めた企画展を行いたいと考えている。

三浦 夏樹

# 「坂本龍馬財団」李登輝元総統の快気祝いに台湾へ表敬訪問

## 「ありがとう」と満面の笑みそして混乱の世、龍馬を語る

昨年、龍馬記念館の3年企画「風になった龍馬―時代は未来へ―」のイベント、アメリカフォーラムがきっかけとなり生まれた「坂本龍馬財団」の活動が広がっている。この夏、大の龍馬ファンである台湾の李登輝元総統のご病気快気祝いに台湾を表敬訪問した。健康を回復された李元総統は日本のアジアの世界の現状を的確に分析、その中で「今、21世紀の龍馬が必要だ」との思いを熱く語った。

## 財団の名誉会員に

この訪問団には同財団のメンバーである郷土坂本家9代目、坂本登さん、ジョン万次郎研究家の北代淳二さん、また、財団と同じく乱世の人材育成を目指す「人間クラブ」船井勝仁さんを始め35人が参加した。年代も職業も違うメンバーだが皆さん「龍馬」で結ばれている。3年前、李元総統が龍馬記念館にお越しになりつながりが生まれた。

7月23日午後3時に李元総統



熱く語る李登輝元総統

の台湾淡水の事務所での再会が決まった。前日、台湾入りして当日は午前中、故宮博物館を見学、着替えをしてから再会場所に臨んだ。30階建てのビルの最上階が李元総統の事務所であった。100人ほどのスペースの部屋は用意万端。午後3時きっかり李登輝元総統が満面の笑顔

で登場である。お元氣そうだ。最初に、私が財団を代表して快気祝いの言葉を述べた。「ありがとう」と李元総統は笑顔で崩さない。竹内土佐郎さんの「龍馬甚句」では大きな拍手だ。「いちむじん」の大河ドラマ龍馬伝のギター演奏、OTOGI(おとぎ)の熱唱「ROMAからの手紙」には聞き入っておられた。また、財団からはお年にちなんで「90番」の名誉会員証をお贈りした。

絵、書などの額類ばかりでなく帽子デザイナーの山本正子さんからはカウボーイハットが渡されると、かぶり心地を確かめながら語る。

「総理大臣は総理大臣になりたくて総理大臣になるような人では駄目だ。総理大臣は国民のために総理大臣になるといふことを一番に考えないといけない」とこの時代、まさに坂本龍馬がいります。龍馬スピリッツが必要だと熱く語りかけた。手を広げ、またこぶしを握り締めながら語る。

山本さんに帽子を贈られて喜ばれる

ねばならぬ道、21世紀の龍馬を育てる課題を提示されたと思います」と紅潮の面持ちで話されたのが印象的であった。その後、夕食会に招待された。李登輝元総統はここでもおおいにリラックス、各テーブルを回るサービスも。質問には気軽に、しかし、真剣に答える。まさしく、人との出会いを大切にする龍馬の姿を見せていただいた。翌日は台湾を代表する統一企業会社の林蒼生総裁、さらに奇美企業グループの創業者、許文龍氏から講演などお話を聞いた。なお、今回の李登輝元総統の講演と、参加者の皆さんの感想を本にまとめることにしています。

森 健志郎



# 「当たり前」だと思っていた感覚が変わる

ハワイでの短期留学を終えて

高知県立嶺北高校3年 大石 すみれ



筆者(右)

私は7月14日から8月12日の約1ヶ月間、坂本龍馬財団からの支援を受けて、アメリカ合衆国ハワイのプナホウスクール、W.O.インターナショナルセンターに短期留学しました。私は昨年行われた龍馬記念館主催のアメリカ・プナホウに高校生パネラーとして参加させていだいており、それがきっかけで今回もう一度ハワイのプナホウスクールに行くことが出来ました。また、ホームステイ先は昨年、プナホウを聞きに来てくれていた方で、奥さんはプナホウスクールの理事長秘書という方でした。まさに人の縁です。

もそれが一番うれしかったです。国際的な仲間もたくさん出来ました。この仲間とは今回のプログラムだけでなく、いつか一緒に仕事をしたり、お互いの国を語りあったり、将来何らかの形で集まるのだろうという気がします。私は私の故郷、嶺北をもっと元気にしたいと願っていますが、以前はどのようなにすればいいのかわかりませんでした。今回ハワイの人達の生活を体験して、「温故知新」というヒントを見つめました。ハワイには伝統的な文化言葉、神話、土地がたくさん残っていて、古き良きものを学び、そこから新しいことを考えます。それが今の私にとても必要なことだと気がきました。私にとってハワイは昨年初めての海外を体験した土地。今回ホストファミリーと共に過ごし、学校に通った特別な場所です。帰国後もホストファミリーとは本当の家族のようにつきあっています。ハワイは私の第二の故郷になりました。

確かに、文化や習慣が違うのではじめは慣れるのに大変でした。英語が思うように伝わらないということも多かったです。けれど、次第に私のカタガタの英語でも分かって貰えるようになってきました。自分の英語が通じたときの嬉しさ！何と言って

私も今まで小さな嶺北という地域の中で生活して、行動することを恐れていました。しかし、行動することこそ自信に繋がるということが分かりました。また、価値観も確実に広がりました。環太平洋の文化の違いから区域の中で「当たり前」だと思っていた感覚が変わりました。国や地域が違えば価値観が違うということを受け入れることが、自分を成長させていく方法の一つだと思いました。今、感じているこの気持ちを大事にして、新しいことに挑戦したいと思っています。

## 初の試み すべて一から作り上げ… よさこいぜよ!!



今回、桂浜一帯が協力して立ち上げた桂浜・龍馬プロジェクトよ!! よさこい踊り子チームにスタッフまた踊り子として参加しました。総勢約70名の踊り子メンバーの皆さんそして関係者スタッフの皆さんと挑んだ練習、本祭の約一カ月間でした。

「土佐の夏はやっぱ暑い!!」桂浜一帯でよさこいチームを立ち上げるといのは初めての試み。歌も踊りもすべて一から作り上げ、試行錯誤の毎日でした。踊り子メンバーは県内外から集結した中学生から60代の方まで幅広い年齢層で構成されました。なんとといっても、初参加…ところが、練習を重ねていくうちに、「本祭で賞をとろう!!」という野望が芽生え、練習も週1日から週3日、そして本祭1週間前からは毎日練習が行われるようになりました。そしてあつという間にいよいよ本祭当日。

初めは緊張で強張っていた顔も、しだいに笑みがこぼれるようになりまし。途中、悪天候に見舞われ、いくつかの会場で踊れないというハプニングもあり、踊り子として踊れないことがこんなにも悔しいものなのだというこ

### 「裏方としての『よさこいぜよ!!』」

よさこい祭り初出場の、桂浜・龍馬プロジェクトよ!!に少しながら協力させていただきました。祭りの華となる衣装の袖にシエイクハンド龍馬像のイラストを描き、また、祭りのパフォーマンストとして使用する巨大鳴子に、龍馬の書簡より「今一度せんたくいたし申し候」の言葉をベイントしました。関わった部分は少なかったのですが、当日を迎えチームを目の前にした時に込み上げてきた感動や思いは踊り子さんへと繋がっていくように感じました。山中 真優

## 「鏝は知っている!」最終回

### 土佐の幕末維新

土佐歴史資料研究会 現代龍馬学会 小島 一男

前回までのあらすじ  
大政奉還はなつた。血を流さず新しい日本が見えた時、龍馬は暗殺される。戊辰戦争は旧幕府を根絶やしにするものであった。時代は天皇の御世へと移っていく。さて、そうならば山内容堂の持つ左幕の象徴「一心不乱」の信家。鏝の行方は?確かに新政府の元で容堂の思いは複雑の極に達した。ついに持つにしのびず、親しき茶人、中田宗閑師匠に相談。「梅見の会」を開きその席上、客人で招いた一人の画家、荒木寛一にこの鏝を文鎮として贈った。天皇と新政府へのそれが忠誠心であった。

### (四) むすびに

この話は山内家では知らなかったとみえ、「一心不乱」の信家」は行方不明とされていた。その後、土佐出身の鏝の研究者として有名な秋山久作氏は「一心不乱」の信家」を捜し求めること実に50年を越える。大正11年79歳の時、画家の荒木寛一の子息寛友の家に伝わっていることを知るが、なぜ、荒木家に渡ったかは不明であった。

「一心不乱」の信家」は、秋山久作氏の血のにじむような努力で、山内家に帰った。時の当主、山内豊景氏(当時、侯爵)は感激の涙したという。しかし、歴

史の流れはいかんともしがたく、終戦後「一心不乱」の信家」は再び山内家を出る事となる。さらにその後の行方は「山内宝物資料館」も知らないという。

また、宗義の鏝も後藤象二郎の死後、いずれの頃から後藤家を、何人の愛鏝家の手を渡って来たかは知る由もないが、土佐明珍鏝の研究者、公文久雄氏の紹介で縁あつて今、私の手元にある。

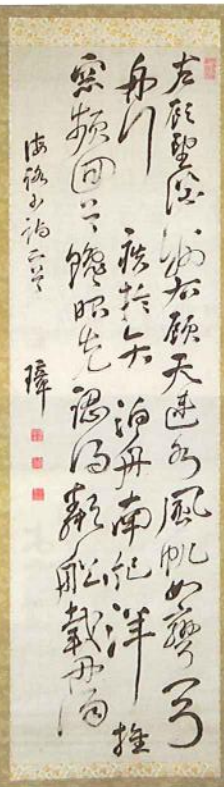
余談ではあるが、吉田東洋を切った大石団蔵の刀(備州長船祐定)は現存しているが、その時の衝撃で曲がったのか、東洋の怨念か未だ鞘に納まらない。



参考	参考6 秋山久作翁のこと
弘化元年 (1844)	1歳 高知城下で生まれ、秋山久作則白と名す。
安政3年	13歳 鏝の研究を好む
万延元年	17歳 元服、知行を継ぐ。
文久2年	19歳 江戸行き、容堂公の側小姓となる頃。
文久3年	20歳 正月容堂に随行で江戸より船で大阪に出上洛、3月に参内、一度来高するも11月再度上洛。
元治元年	21歳 3月まで在京す。
慶応3年	24歳 4月、容堂に従い上洛。参内時は太刀持ち
大正11年	79歳 荒木寛友方より信家を山内豊景公に献上
昭和11年	93歳 永眠



秋山久作



容堂掛け軸

### 参考文献

- 刀剣雑話 室津鯨太郎 著
- 鏝 川口 渉 著
- 龍馬読本 入交 好保 著
- 岡録土佐明珍鏝 公文 久雄 著
- 池道之助日記 思い出草 鈴木 典子 著

土佐史談会誌 (長期)愛読ありがとうございます (ございました) 筆者より



# 拜啓 龍馬 殿

195通

平成24年6月21日～9月20日

目の前のことにいつぱいになって、あれこれとすぐ悩んでしまう私に、ふと立ち止まって考えるきっかけを作ってくれた大切な人が、初めてこの桂浜に連れて来てくれました。そして、龍馬さんのまっすぐな人生を知りました。この高知で知った幕末の歴史とあなたの生き方は、私にとっても成長する糧となりました。私にとっても、大切な人にとっても、この高知は心のふるさとです。日常生活にうもれてしまっていて自分を見失うのではなく、また休みの日は心の洗濯をするためにここへ来たいと思います。

7月1日 大阪 M・A 23歳 女性

こんにちは、ここへは初めて来ました。この間、館長さんの講演を聞き「高知の方が一番来て欲しいのに一番少ない」と言っていたので、祖母と妹を連れ来て来ました。大河ドラマを欠かさず見ていたので「うみ」というお龍さんの話が出たときは嬉しかったです。私は三姉妹で「さおり」「のぞみ」「あかり」という名前前で、語尾が「い」と終わります。「うみ」と同じ名前を言った後は笑顔になるんです！その通り、うちの中はいつも笑いがあつて賑やかです！これが言いたくて今日来たようなものです！シエイクハントもたくさんしてもらいました。また来ます。

7月8日 高知 S・S 26歳 女性

龍馬さんから始まったたくさんのお会いに感謝します。ありがとうございます！

8月11日 広島 M・E 48歳 女性

今、歩き遍路の道中です。私も龍馬ファンの端くれです。が、どこに魅かれていたのか不思議です。腕がたつから？誰もがあきらめてしまう現状やしからみから自由であるから？全く新しいグループを率いるリーダーだから？女性にもてるから？天折して残念無念だから？今ふと思ったのですが、やはり彼自身もすごいけど、それ以上に彼が生きた時代が熱かったのだと思う。その激動の中で、まさに現代人と同じような自由な発想、立ち位置を持ってたところにやっぱ引かれます。やはり若者たちが命をかけて日本の未来を築いたあの時代だからこそ本当に坂本龍馬が輝いたんだと思います。

8月14日 神奈川 Y・M 46歳 男性

息子につけたがった一文字は「龍」。「龍吾」と名付けました。人と交わり、会話をし、個からの発想でなく和の発想ができるような、そんな人間に育つよう、あなたの「龍」にあやかりたいと思います。平日というのに今日も記念館へ入ってしまいました。今尚、老若男女すべての人に愛されるあなたが大好きです。

8月17日 福岡 H・N 52歳 女性

前、はじめて龍馬の伝記を読んだとき、とても感動しました。そして一度よんだのにまたよみたくあきなくて、もう20回ほどよみました。私は、龍馬の伝記が100年後もずっと人々の心をみりょうできたらいいな」と思っ

今回高知に来た理由は、小高知に行く約束をして行けずいたので、写真をおいちゃんに見せること、龍馬さんのルーツを知りたく来ました。色々見て回りましたが、桂浜に来て全て分かった気がします。この広く続く水平線を見て、龍馬さんも悩みや問いの答えを見出していたんだなと思えました。この景色を眺めていけば嫌なことくよくよしていることも全て消えてしまします。僕も龍馬さんのように目標を高く持ち、大きな人間になりたいです。天国から見守っていてください！

7月21日 神奈川 R・U 29歳 男性

2度目の高知です。次来るときはもうすこし龍馬さんについて知っておこうと宣言したにもかかわらず、新撰組に詳しくなってしまう。向こうではいろいろ大変だったのに、一年たっても桂浜の海はきれいですね。3回目、4回目といつ来ても龍馬さんと桂浜を迎えてくれると思ったらなんだかうれしいです。また来ます。

7月25日 東京 C・D 14歳 女子

わたしの父はわりようまさんが大すきで、20才の時に来て、40才で今日に来ました。20年ぶりです。ここにきて。

7月29日 兵庫 M・F 7歳 女子

久しぶりじゃのー。今日は友達と来たぞね。握手がやっとなで。幸せ。今年も色々あったな。龍馬に会いに来た。今日は幸せ。幸せ。だ。ストレス発散できました。

8月19日 高知 M・K 47歳 女性

あなたの素晴らしさ、あなたに改めたい。あなたが他の人へ示した愛の大きさ、スケールのかさ、学ぶべきところは沢山あります。「偉人」。本当にその偉大さは他に類をみない程かもしれません。私たちが今を生きているのは、その偉大さに触れ、まず他の人への思いやりと愛を持って生きていくことこそが、あなたがこの世に生を受けた短くて濃い人生を駆け抜けて残してくれたものを生かせるたった一つのできてくれたことだと感じます。生まれてきてくれてありがとうございます。

8月20日 神奈川 Y・H 40歳 女性

めっちゃカッコイイ！私は就職して7年目です。最終的な大きな目標としては、みんなが笑っていられる世界になれたいな！と思っしてみても、何をどこからどうしたらいいかわかりません。龍馬さんも迷ってましたか？毎日、暗中模索しながら一歩一歩前進しようと思っています。同じ日本人としてみていてください。

8月21日 大阪 K・I 16歳 男子

今まで龍馬さんのことをよく知りませんでした。この記念館に来て龍馬さんのひみつがよく分かりました。味も持ちました。ぼくは香川から来たので、たくさんこの記念館に来ることでできません。べつこのほうほうで龍馬さんのことを調べてみたいと思います。

私は56歳、教員生活もあと3年、いろんなことを考えさせられます。今この坂本龍馬が見ていたであろう海を見て決意を新たにしています。志は高く、行動は着実に、子どもたちを教育するということより、共にこの幕末に似た激動の時代、混迷した今を生きていこうと思えました。志をもって誠実に一歩一歩歩んでいきます。

8月7日 福島 F・N 56歳 女性

「龍馬伝」を見て以来大ファンになった息子を連れてきました。7月まで中学校の野球部でがんばり、3年生で最後の試合を終えて、なにか目標を失っているような息子に、この四国旅行を提案したところ、ふだんはろくに口もきかないような子が「行くー」と言い、目を輝かせて見て回りました。きつと人生にとっていい経験になったと思います。

8月9日 福岡 Y・S 44歳

青い空に白い帆を上げ大海原へ！私を元気にしてくれてるイメージです。そこには海の向こうを、未来を見つめ立つ龍馬さんの姿があります。30年前に「龍馬がゆく」を読んだときから人生が変わりました。転んでも立ち上がり、前を見ようと決めました。

この前の大河ドラマを見て龍馬が好きになったので龍馬記念館に来ました。記念館には龍馬だけではなく、龍馬に関係のある人物もたくさん出てきたので、龍馬の一生がよくわかりました。龍馬が暗殺されて、しかも犯人が見つかっていないなんて龍馬がかわいそうだなと思いました。でも龍馬はお龍さんと仲間と出会って短い人生だったけど幸せだったと私は思います。ここは遠いけど来てよかったです。

8月21日 京都 N・T 12歳 女子

あなたに会いに土佐へ来るのは二度目になりました。この太平洋の海とあなたを見つめていて、自分の考えているものがものすごく小さなことに気が付かれます。やっぱ来てよかったです。今夜は土佐の海と龍馬に乾杯ぞよ！また元気をもらいに来ます。

8月23日 広島 M・A 44歳 男性

\*\*\*編集者より\*\*\*  
今回は4歳から82歳の方まで、まさに老若男女から龍馬へのメッセージをいただきました。年代別では0～10代…46人、20～30代…38人、40～50代…30人、60代以上5人という結果に。これだけ幅広い年代から愛されている歴史上の人物は他にないと思います。また、親から子へ、子から孫へと、何世代も続いて龍馬ファンというご家族もめずらしくありません。時代は変わっても、人間の志すものは常に同じで、龍馬の生き方・考え方がそこへ導いてくれているような気がします。

尾崎 由紀

## ここは館長の部屋 森 健志郎

### よわい余話

私の役割は、地方車と一緒にゆっくり歩きながら、踊りのスタート時に大声で掛け声を発するのである。土佐弁で「龍馬行くぜよ！」。8月、夏の土佐路のメインイベント「よさこい祭り」だ。

不思議なくらいだが、これまで59回のよさこい祭りに桂浜地区からの「出陣」は一度もなかったという。NHK大河ドラマ「龍馬伝」の余波はまだ続いている。東北震災は人間社会の絆の大切さを思い起こさせた。龍馬スピリッツ発信の時ではないか。土佐の中心として龍馬の「桂浜」が黙っているとは、地域の関連団体で合同チームを組んだ。チーム名は「桂浜・龍馬プロジェクトぜよ」。思いは熱く県外からの参加も含めて、踊り子は75人が集まった。

練習？やりましたよ。午後6時を回ってから。7月に入ってから3週3回、直前は4日連続だった。中学生から上は69歳の張り切りおばさんまで。2日間、踊り抜いた。踊ることに不安が消えて、逆に自信に満ちてくるのだから。

「笑顔！笑顔！ぜよ！」練習の時は踊り子の皆さんの硬い表情が気になって、そんな注文をたびたびつけていた。ところがどうだ。競演場、そして舞台上になるとそんな心配は吹き飛んだ。満面の笑みじゃあないですか。衣装の両袖に控えた龍馬さえ笑っているが如しであった。

気がついた。初めての踊り子達の気持ちを見事にほぐし、高ぶらせたのは沿道に陣取った観客の皆さんの声援だった。通り過ぎて行く踊り子たちに声をかけ、団扇で風を送る。カメラは止むこと無し。まさにお祭り。最後のお別れ会は、全員参加で、来年の再会を約束。終了は午前1時を回っていた。たった一つ心残りがある。わがチームが初参加だったという理由で、追手筋の本部席前で踊れなかったことだ。参加して初めて知った決まりであった。祭りの趣旨に反する規則だと思いが、現実には生きている。そのクレームを言うことさえ忘れさせる祭りパワーが、よさこいにはあるようだ。

### 夏休み特別企画

## 大友啓史監督が魂を語る

龍馬伝からNHK脱藩第1作！映画「るるるに剣心」へ！  
8月18日、桂浜の地下大会議室は熱気に包まれていた。150人の定員は満席で、トークセッションの間中、人々はステージに集中した。

この日の主役は、NHK大河ドラマ「龍馬伝」の演出家として日本中を沸かし、昨年、映画監督としてデビューした大友啓史さん。トークセッションは、クラシックギターデュオいちむじんによる「龍馬伝」の演奏で幕開けした後、大友監督と俳優・青木崇高さんが登場した。青木さんは「龍馬伝」の後藤象二郎役で強烈なイメージを残し、今話題の俳優さんである。大友さんの監督映画第1弾「るるるに剣心」にも出演している。

人なつこい笑いや軽妙な語り口の大友監督に、相づちを打つ青木さんが俳優としての素顔を見せる。その絶妙なコンビネーションと会話は、大友組の同志であり、「龍馬伝」で築いてきた信頼関係を私たちにあますことなく披露してくれた。

「高知は特別な場所。「龍馬伝」で人生考えて、NHKを辞めざるを得なくなっちゃった」と笑う大友監督に、青木さんも「高知には以前ヒッチハイクで来ました。龍馬さんに影響されて「龍馬伝」終了後、半年間ニューヨーク留学もしちゃいました」と笑った。二人

と高知との関わりはこれからも続いていくことだろう。記念館では11月18日、「レッツゴー！ハンドインハンド」を開催する。これは桂浜の龍馬像からシエイクハンド龍馬像まで450人で手をつなごうという企画。最後に記念館の龍馬と手をつなぐのは後藤象二郎！「龍馬伝」清風亭会談のように龍馬と青木象二郎さんのシエイクハンドが実現するかも…。



人生に影響を与えたという「龍馬伝」について、大いに語る大友啓史監督(右)と青木崇高さん

前田 由紀枝



## ■「高松紅真展 —shake hands— 龍馬と手をつなごう」を終えて



埋め尽くされた“手の集合”

6月から2ヶ月間に渡り高松さんの世界が海のみえる・ぎやうらいに広がった。今回のタイトルで展覧会を開催したいと思われたきっかけは、昨年、記念館で行われた“シェイクハンド龍馬像”の除幕式だったそうだ。

まず、最初に目に飛び込んで来るのは縦3.3メートル×横4.4メートルの「うなるうみ」という大作である。高松さんは前々から大きな作品を展示したいというご希望があり、今回は展示スペースに手を加えやっと実現した。記念館を楽しみ、最後にたどり着くこの空間で、「龍馬と龍馬をイメージした作品を通して手をつなぐ」ことを意図した12点の作品が展示された。

また、会場には皆さんに参加していただく試みとして「手の集合」皆さんも自由に手を書いてみませんか?というコーナーが設けられた。真っ白い用紙に、皆さんがイメージする“手”を書いていただいた。あつという間に国内・海外様々な手の形やメッセージが、溢れんばかりに白い用紙を埋め尽くした。

正直なところ、展覧会のタイトルと高松さんの作品そして意図された趣旨は、私の中で少し曖昧な印象があった。しかし、“作品”と“手の集合”が同じ空間で生む相乗効果は「つながる」ことの答えの一つだと思えた。

中村 昌代

## ■ 著名なマンガ家による「私の龍馬イラスト展 in 土佐」夏休みにぴったり

8・9月は、「私の龍馬イラスト展 in 土佐」を開催した。この展覧会は、日本を代表するマンガ家や、イラストレーターら53名が、思い思いの「坂本龍馬」を表現した作品55点を一堂に展示したもので、プロデュースはミュージシャンのサエキけんぞう氏。長崎・京都・東京など龍馬ゆかりの地を中心に各地で開催されており、ここ高知が最終地となった。出品者は、



一堂に並んだ作品

やなせたかしさんや西原理恵子さんら高知出身者をはじめ、南伸坊さん、しりあがり寿さん、江川達也さん、久保ミツロウさんなどそうそうたる顔ぶれ。さらには人気グループEXILEのTAKAHIROさんも書で参加している。作品はアフロ頭の龍馬やギターを持った龍馬などどれもユニーク。自身の作品のキャラクターと龍馬をコラボレーションさせたものも多数あって、龍馬ファンならずとも興味深くおもしろいものばかりであった。来館者からは「イラスト展よかった。おもしろかった」等の感想を頂き、子供から大人まで幅広く楽しんで頂けたように感じた。また会期中に高知ではちょうど「まんが甲子園」が開催されており、参加していたマンガ好きの学生らも多数来館された。龍馬ファンもマンガファンもみんなが楽しめる夏休みにぴったりの展覧会であった。

小島 千穂

## ■ Let's go! Hand-in-Hand ~龍馬でつながる、志でつながる~

シェイクハンド龍馬像のお披露目からまもなく1年。入館せずにシェイクハンド龍馬像と握手だけという方も現れるほど、皆様に知られる存在となってきた。これまでに20万人を超える方と握手をした龍馬像の手は日ごとに輝きを増している。

そのシェイクハンド龍馬像の1歳の誕生日を祝うイベントを11月15、18日に開催する。タイトルの「Hand-in-Hand」は「手に手をとって、協力して」という意味。まさに今の日本にぴったりの言葉だ。身分に関係なく同じ志を持つものが協力することで平和で平等な国づくりを目指した龍馬の精神、そしてシェイクハンド龍馬像誕生の意味にもつながる。イベント内容もその意味に則したのものとなっている。詳細はホームページをご覧ください。

尾崎 由紀

### 11月15日(木)

- ・シェイクハンド龍馬像写真コンテスト受賞作品発表  
シェイクハンド龍馬像と一緒に撮影した写真を全国から募集し、各賞を発表
- ・『竜馬がゆく』リレー朗読  
昨年に続き龍馬を題材にした小説を「読みつなげる」
- ・手筒火花×よさこい(桂浜水族館前の浜辺)  
昨年好評だった静岡県三ヶ日町手筒火花保存会による手筒火花とよさこいの共演

### 11月18日(日)

- ・みんなあでシェイクハンドぜよ!  
桂浜龍馬像からシェイクハンド龍馬像まで400人が握手でつながる
- ・よさこい鳴子踊り  
桂浜発のよさこいチーム「桂浜・龍馬プロジェクトぜよ!」

## 入館状況

2012年9月20日現在(開館以来7,572日)

- ◆総入館者数 3,273,081人
- ◆最多入館 (2010年5月2日) 6,686人
- ◆最少入館 (2004年10月20日、台風のため) 8人
- ◆2012年度最多入館(2012年5月4日) 3,119人
- ◆2012年度最少入館 (2012年6月19日、台風のため) 57人

## 編集後記

豪雨、雷、不安定な気象状況はまるで日本の乱れる世情の如し、などと言っていたら、“不安定病”に自分自身が犯されていたようである。まさにあつという間に夏が過ぎ、ツクツクボウシの蝉の声が細くなったと思ったら、アキアカネの群舞が涼しい。早や11月の“龍馬月”の段取りが始まっている。好評だった吉田東洋展、次は京都土佐藩邸史料展。飛騰原稿をチェックしてみると、未出稿は「編集後記」だけでした。つまり完璧です。(モ)

館だより“飛騰”第83号(年4回発行)表紙題字:書家 沢田 明子氏

発行日 2012(平成24)年10月1日  
発行 高知県立坂本龍馬記念館  
〒781-0262 高知市浦戸城山830  
TEL (088) 841-0001 FAX (088) 841-0015  
http://www.ryoma-kinenkan.jp  
「飛騰」に対するご意見ご感想などお寄せください

開館時間 9:00~17:00 年中無休

入館料 一般500円・高校生以下無料

身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所持者とその介護者1名  
高知県・高知市長寿手帳所持者は無料

館だより「飛騰」は、郵送料のみのご負担でお届けいたします。ご希望の方は、90円切手5枚をお送りください

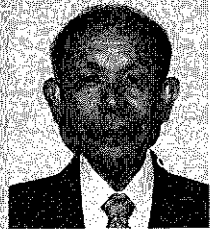


私のテーマ

## 田中良助郎と龍馬

“家族”の一員の如くに

現代龍馬学会会員 岩崎 義郎



### 見晴しのいい柴巻田中家

高知市の北部柴巻鏡地区の、坂本家の領知の管理を引き受けていたという、柴巻の田中良助の邸を私が訪れはじめたのは20年も前の頃からである。その頃から田中良助邸は、老朽化が激しく、雨漏りがする状態で、家の中には所々に洗面器やバケツが置かれて雨を受けているような状態であった。

高知市では、文化財保護審議会の中に調査委員会を設け、田中家の了解を得て、平成11年(1999)8月から関係者の聞き取り調査や家屋の実測調査を行ない、高知県内で唯一残された龍馬ゆかりの建造物であるとして史跡指定を答申、平成14年11月15日に高知市史跡に指定された。そして、翌年1月には建物が田中家から高知市に寄付され、16年度に全面的な修復工事が行なわれて、現在は「田中良助旧邸資料館」として金土日に一般公開されている。

主屋は、田の字型の間取りの部分に茶の間部分が付属していて、冠婚葬祭を中心とした機能重視の間取りになっている。また、南面する床の間と表の間は1間半に4枚戸を使用し、長押を各室に使用していることなどから、格式面も重視した建物であると報告されている。

農家らしく、収穫した籾などを筵に掛けて干すために広い前庭を持っていて、標高300mに近い庭先からは、見通しのよい日には遠く太平洋の水平線も見渡せる、絶好の場所である。また、すぐ近くに田中良助や祖父父母、良助以下の一族の墓もあり、その裏山にある八畳岩からの眺めも、ここに立って足下に小

さい高知城を眺め、まだ見ぬ海の彼方に思いを馳せたであろう若き頃の龍馬と同じ体験ができる場所として、是非訪ねていただきたい場所である。

### 襦の下張りから龍馬の借用証文

戦後田中家の襦の下張りから、龍馬の署名のある金二両の借用証文が発見された。よく知られた有名な借用証文であり、観光ガイドを務める私としては「この襦のここから出て来たんで



助時代のものでと思われるものを見ると、先ず専門武術関係の文書では、「砲術稽古記録」「武術流砲術初傳巻」「武術流小筒之巻免許状」、高島秋帆の「生兵教練」「小隊教練」「大隊教練」上・中・下」その他があり、一般教養関係では「京都方面地図」「中国四国九州方面地図」「弘法大師御傳記写」「普原傳授手習鑑」「太平記忠臣講釈」「忠臣蔵九段目」それに「句集」まであつて枚挙に暇がない。

これで見ると、良助は鉄砲を扱うことにも相当熟練していただけでなく、近代的な軍隊の操練にも大きな関心を抱いていた可能性がある。田中家には四挺もの銃を立てかけることが出来る「鉄砲懸け」が残っていたので、龍馬も良助に習いながら兎迫いであろう。役目をしたかもしれない。夜には、初孫を膝に抱いた若いおじいさんの良助を中心、困炉裏を囲んで酒をくみ交わしながらの団らん模様やその妹たちも、龍馬の話上手に引き入れられて、目を輝かせながら見たことのない江戸の話や、黒船の話などを聞いていたであろう。

末っ子の龍馬にとって、年下の話し相手のいる家庭は楽しかったであろうし、身分を超えて、これらの家族に囲まれて田中家に宿泊することは、龍馬にとって忘れることのできない経験となったことであろうと、勝手に考

す」と説明できれば臨場感があつて楽しいと思うが、残念なことに、発見当時の五代目当主田中正義さんは昭和59年に亡くなつており、その話を聞いておられたはずの六代目正郎さんも、平成9年に他界されていて、その他の人は聞いておらず、今となっては確かめようがない。

### 龍馬の先生

田中良助という人物を知る上で参考となるのは、田中家から発見された138件にのぼる文書である。その中で良

### 困炉裏を囲めば...

田中家の西側、段高い見晴らしのよいところに、良助の祖父父母以下の墓がある。両親の墓は鏡村にあると云われているので、良助夫妻は両親の死後、父母を伴って鏡村から移住して来たも

# あなたにとって「龍馬」って何ですか?

## 映画監督 大友啓史さん「脱藩の心」を語る

### 話題人 インタビュー



『龍馬伝』演出家・大友啓史、NHK脱藩！この二エースから二年余り。話題の大友啓史さんは映画監督へと見事に転身した。八月下旬封切りの第二作映画『るろうに剣心』(ワーナーブラザーズ/佐藤健主演)は一週間で動員百万人を突破、四週目で二百万人を超える人気ぶりである。この快挙に、大友組の俳優はじめ関係者、もちろんファンたちは大いに沸いている。映画封切り前、大友監督は大学生や小さなグループの求めにも気軽に、日本全国を駆け回っていた。そんな中の記念館企画で、俳優の青木崇高さんとトークセッションをしていた。その直前のインタビューである。

大友監督に聞きたいことは、ズバリ。「あなたにとって龍馬とは何ですか?」「なぜNHKを辞めたんですか?」

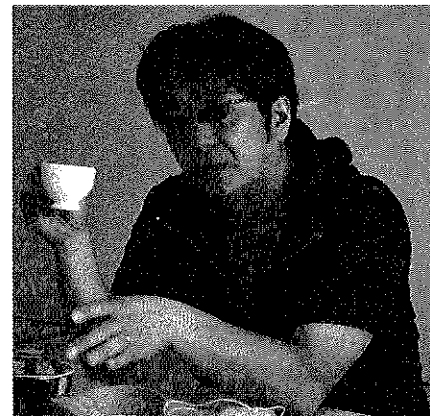
#### 龍馬の気持ちで、大河ドラマをチェンジ!

まずは、龍馬との出会いになった『龍馬伝』についてお話しします。いろんなエピソードがあると思いますが...

「龍馬伝」の企画の最初の頃は、ちょうどアメリカの大統領選でオバマさんの「チェンジ」の頃でした。僕も龍馬とともに動いて、変えなきゃという気分にとりつかれていた。龍馬さんときあつた3年間は、僕の企画では最長です。龍馬の目線で物事を見て考えてやっていると、考え方が似ちゃう。それが僕は楽しいですね。

作り手の仕事は、龍馬さんを客観的に評価したり判断したりすることではない。また、その人が素晴らしい人かどうかではなく、その人の気持ちになって作るだけです。

自分がそこに同化して作っていると、今まで自分になかった考え方や目線が生まれる。他人の人生を追体験するということは、写経のようにあの時代の言葉が体に入ってきて、似たことをやっている。その仕方が相当入り込んだやり方だったので、頭がおかしくなっていたんです(笑)。



今までのシステム。例えば、今までの大河ドラマの映像を変えるんだと思った。四十八年かけて作ってきたNHK看板番組の映像を変えるなんて、いろんな軋轢が起ってくる。でも、世の中を変えた龍馬だから変えなきゃならない。変える!という気持ちになっていった。

そこを突破していくときの僕のエネルギーとかモチベーションになっているのは、「だつてしょうがないじゃん。龍馬やるんだから」ってスタンス。龍馬じゃなく徳川家康だつたらそんなこと考えませんよ。「だつて龍馬だから」と周囲を説得していったから、完全に考え方が龍馬に近くなつちやうたんです(笑)。

#### NHK「脱藩」への道

龍馬が、龍馬の考え方が、大友さんの体に入ってきた感じですね。それで、どうなつた?

それで、いつの間にか、もう当然のように(NHKを)辞めるという方向に気持ちが行つて、辞めちゃうんです。そういう意味で、龍馬はすごく僕に影響を与えた人なんです。だつて僕の人生が変わつたわけでもなん(笑)。

やっぱり、命を懸けて生きた人たちの言葉とか、やつたことについて心に強く残るんです。僕は「龍馬伝」が終わつてから、誰にも言わず一人でこつそりと関係者のお墓参り巡りをしたんです。長州山口で吉田松陰さんのお墓参りもして、記念館にも行った。そこで、松陰さんの「死して後已む」なんて言葉がワァーッと入ってくるんです。死んで初めて止まると死ぬまで止まらない。松陰さんが柱さんたちに教えて幕末の人たちをとりこにした言葉。僕も止まっちゃいけないんだと思つた。

会社の中にいると、僕の「大友組」というスタッフがいる、いつも「緒だし、会社から期待されるネタや撮影の規模も変わらない。でも、そのときには僕はもう止まれない。ここで止まると二年間かけてやつてきた『龍馬伝』が嘘になるという感覚になつた。死して後已むという生き方をした人たちが二年間体験してしまつたんです(笑)。

#### 自己革命を世の改革へ

そこまで龍馬と関わつた大友さんから見ると龍馬ってどんな人ですか? 龍馬という人は、単純に好奇心のかたまりだと思つた。地球を二周するくらい行動したと言われるけど、自分を変えた

かつた人だと思つた。革命の方法には二つあつて二つは自分の周囲の環境を変えるやり方と、環境は変わらないけど自分を変える、自分が変わると世の中が変わるといふやり方ですね。龍馬は自分が変わることで世の中を変えたんじゃないかな。いろんな人に会つて自分自身が変わっていくと、世の中の見え方が変わっていく。自己革命を本当の革命につなげていった人で、稀有で面白い人です。そういうところが龍馬の魅力。大きなことを言うんじやなくて、自分を変えていくことの延長線上で世の中を結果的に変えちやうた人ですね。

なるほど。それはどういふことがら感じた、あるいは気づいたんですか? 実際にセットを作っていくと、ここに龍馬がどうやって入っていくの?入れたの?というように、現場で分かることってあるんですね。

例えば龍馬の暗殺現場だつてセットに入ると、「これっておかしいよね。この距離で外から入ってきた人に龍馬が殺されるわけがない。中岡じゃないか?」なんてことを、その場所に身を置いてみると思つたりするんですね。現場を作つて体験してみると文献とは違うことが分かる。何となく史実とは別の発見がある。

机上のものではない発見が現場にはあるんですね。だから僕は現場に入る前には、何も考えないし、決め込まない。きょうのトークセッションなんかもそうですけど、相手とのコミュニケーション、態度の問題です。よく考えずに入つて

#### 幕末が役者に与えた影響

龍馬役の福山さんはじめ、役者の皆さんの人物や時代への入り込み方というのはいくらもありません。海援隊組、勤王党組、あるいは二匹狼的な方とか。何がそこまで彼らを追い込んでいったんですか?

ちょんまげ結つて、幕末の格好して、18分なんていう長回し撮影で、天井にライトもない現場で演じていると、時間の感覚が狂つて本当に幕末に居る意識になるんですね。特に若い役者たちはね。こんなドラマはないですね。

幕末の「居ても立ってもいられない人たちの生き方」というのは、魅力的なんですよ。死が身近に感じられる時代といふのは、多分今よりも生きていくことが充実しているんじゃないかな。刀を抜いた瞬間に相手を殺すことのできる道具を日常的に持っている時代の緊張感や密度は、今は全く違う。それは役者にとつてみれば、分かりやすいし、役に入り込みやすいと思つています。

#### 東北大震災への思い

昨年3月11日の大震災や原発事故は私たちの意識を変えた。大友さんにとつても大きな出来事だつたのでは? 僕の実家は岩手県盛岡市です。ちょうど僕が会社(NHK)を辞める決意をした三月。東日本の半分がつぶれ、経済もつぶれた。会社を辞める時期としては最悪でしたね。映画どころじゃないから、僕は映画の企画はダメかなと思つた。僕は地元の盛岡に行く手段もないまま「るろうに剣心」の脚本を書き続けていました。地震の影響で、僕は映画のラストとかいくつかのシーンを変えました。

人の命が戦争や核兵器という敵に奪われるのではなく、今まで共存し慈しんでいた自然の猛威によって奪われたという、その唐突な命の失われ方というのは物語にすごく影響しました。人の命を扱うテーマで、いい加減なことではできません。

震災後なんて、映画どころじゃない。僕は会社を辞めてエンターテイメントやるなんて言つてるけど、何の意味もないんじゃないか。俺が二十年間やつてきたエンターテイメントなんて要らないんじゃないか。そんな気持ちになりました。でも、少しすれば必要とされる時期が来るかもしれないと考えた。

「るろうに剣心」の緋村剣心は、明治の廃刀令が出て武士の魂である剣を粗末に扱うことはできなかった。僕もそれと同じで、二十年間やつてきたエンターテイメントを捨てることはできない。こ



**大友啓史(おともけいし) プロフィール**

映画監督。1966年生まれ。慶應義塾大学法学部卒。90年NHK入局後、ハリウッドで脚本や映像演出を学ぶ。連続テレビ小説「ちゅらさん」シリーズ、ドラマ「ハゲタカ」「白洲次郎」「龍馬伝」等の演出、映画「ハゲタカ」(09年東宝)監督。イタリア賞はじめ国内外の賞を多く受ける。昨年4月NHK退局し、映画監督に。本年8月公開の監督第一作の映画「るろうに剣心」(佐藤健主演)も好評で、来年春には第二作「プラチナデータ」(東宝/二宮和也、豊川悦司)公開予定。



前田 由紀枝「まえだゆきえ」  
現代龍馬学会理事  
坂本龍馬記念館学芸主任



# 伏見の三十石舟

京都国立博物館 宮川 禎一

特別に好きというほどではな  
局は尿瓶をかかえた老婆が乗っ  
いのですが、たまに落語を聴き  
ます。東京国立博物館への出張  
の際には夜に上野の鈴木演芸場  
に行くことがあります。そこで  
江戸時代から伝わる人情噺を  
ゆつくり聴くと江戸っ子の気分  
や江戸時代の雰囲気味わえ  
てとても気持ちの良いものです  
(「幾夜餅」に感動)。

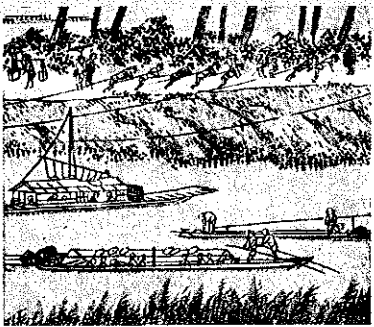
ある夜、テレビ番組でなにげ  
なく「三十石舟」という落語を  
聴いていましたら、これが歴史  
的にとても貴重な噺だったので  
驚きました。

この落語全体をきちんと覚  
えて居るわけではありませ  
んが、伏見の船宿から淀川をく  
だつて大坂八軒屋浜へ行く三十  
石舟(約三十人乗りの和船)が  
主題です。乗船しようとする旅  
客の生感がこまごまと描写され  
ていて興味深いものでした。さ  
まざまな階層の人びとがひとつ  
の舟に乗りあうので、そこに起  
る喜劇を断つたものです。

乗船名簿に「聖徳太子」とい  
う偽名を名乗る町人や、お土産  
物に伏見稲荷の土人形を持って  
いる人が出てきます。もう満席  
の三十石舟に「もうひとり妙齡  
のお女中を乗せていただけな  
いか」という船頭の声に好色な男  
性が「私の膝の上に乗っていきな  
さい」と心じるのですが、結

眼から鱗が落ちました。  
古典落語が貴重な歴史の証  
人だというお話です。

図版は、淀千両松付近を上下する  
三十石舟の様子(淀川両岸一覽)文久  
元年版より。上りの舟は岸で足が  
引(はる)



## “話してみるかよ”

### 肩書きを持たない派遣社員坂本龍馬

NPO法人高知龍馬の会 理事 井倉 俊一郎

大佛次郎原作1973年テレビ版「天皇の世紀」26話を見た。伊丹十三レポータによる現代(1973年当時)の河原町近江屋跡とその前にある土佐藩邸跡が映し出される。

なぜ龍馬は安全な土佐藩邸内にいなかったのか、宮地佐一郎氏いわく300年の身分制度の確執により下士である龍馬は邸内に居られなかったのである。大政奉還の企画立案者は龍馬であるが提言者は山内家の後ろ盾がある上土後藤象二郎によってなされた。

アーネストサトウの日記に登場するパークス公使との対談にも山内容堂、後藤象二郎は頻りに登場するが、龍馬については土佐より夕顔丸で長崎に向かうくだりと、近江屋での暗殺事件についての2行で終わりである。

龍馬の職歴(プロフィール)を見てみよう。1863年勝海舟の神戸操練所にて塾頭となる。1865年操練所閉鎖の為解雇される。勝海舟の紹介で西郷隆盛(薩摩藩)から給金をもらい亀山社中(派遣会社)を設立。亀山社中の頭として有能な人材を育成する。

1867年後藤象二郎(土佐藩)にヘッドハンティングされ契約金アップでトラヴァーユ土佐海援隊をまとめ「いろは丸」事件では紀州から賠償金を勝ち取るなど土佐藩内でも交渉力ナンバー1の営業マンであった。しかし正社員の待遇を得られなかったのか得られなかったのか、日本歴史の大転換を成した大政奉還後も藩邸に入らず醬油屋の土蔵暮らしであった。

大政奉還後の江戸城引渡し無血革命も徳川慶喜から勅命を受けた徳川家代表の勝海舟と薩摩藩代表の西郷隆盛による組織を背負った肩書きある人物同士の藩(会社)存続の折衝であった。龍馬は肩書きを持たない組織に属さない人であった。

だからこそ長州の木戸、薩摩の西郷互いの藩(組織)の面子にこだわる両人を和合させることができた。

今年の終戦記念日に放映されたドキュメント番組を見た。1945年終戦数ヶ月前に開催された御前会議にて面子にこだわる海軍、陸軍、内閣、外務省各組織のトップが個人の見識ではなく組織の見解として会議に臨み、いつまでも決断できないまま優柔不断な先送りが壊滅的路へと日本国民を追い込んでしまった事は今現在も起こりうることである。

1867年11月15日肩書きを持たない派遣社員坂本龍馬は大政奉還後お役ごめん暗殺(派遣切り)に合ったのかも知れない。今政治経済が混沌としている現在肩書きを持たなくても日本のやるべきことを決断できる龍馬スピリッツを持った人物の登場を強く望む。

## コラム・龍馬のこと

### 「日本一の龍馬像を建てた若者たちの物語」を書いて

現代龍馬学会会員 椿原 庸夫  
(札幌市在住)

この夏、拙著「日本一の龍馬像を建てた若者たちの物語」(東京図書出版)を出版した。昭和の初め、高知市・桂浜に、当時早稲田大学の学生だった入交好保氏ら高知の青年たちが中心になって建てた龍馬像をめぐるドラマだ。それは、実に「ひよんなこと」がきっかけだった。

NHK大河ドラマ「龍馬伝」が放映された2010年春、知り合いの映像制作会社から北海道・浦臼町の郷土史料館の仕事を引き受けたので手伝ってほしいという依頼があった。浦臼町は、高知県・本山町と姉妹町だ。明治26年に自由民権運動家の武市安哉らが入植し、31年には龍馬の甥・直寛が一家を挙げて移住した。そして、龍馬の夢の一つだった北海道開拓に大きく尽力した土地だ。リタイアして6年も経っていたので、一度はお断りしたが、「何とか少しでも」と押し切られてしまった。龍馬ファンの私もまんざらではなかったが、それにしても、改めて龍馬のことを勉強しなければと、「竜馬がゆく」の再読や幾つかの資料に目を通した。そこで、突然私の目に輝かしい光を放って飛び込んできたのが、若者たちの快挙だった。

この立派な「ビジネスモデル」からは、多くのことを学んだ。一つは、若者たちが持つ可能性の大きさだ。不可能を可能にしてしまう行動力の凄さを認めていた龍馬像建設会長の野村茂久馬氏も、「未来は青年のもの」「百年後、青年諸君の像を仰ぐ日あるべきを信ず」と賞賛していた。二つ目は、昭和初期の若者たちが語った言葉の中には、人口・食糧・エネルギー問題などがあり、龍馬の遺志を継いで新しい日本をつくらなければならないという強い国家意識を持っていたということ。三つ目には、人生における「夢・希望・勇気・志」の大切さ、素晴らしさを再認識させられたことだ。人生70年を迎えた今、そのことを心深く思う。この2年間は、龍馬をはじめ土佐の偉人たちの想いを受け継いで、「今」に活かしている土佐の人々と風土の妻さを実感した日々でもあった。